

## 【避難誘導支援】

### 機能別消防団員による避難誘導支援

草津市総合政策部危機管理課

#### 1. 滋賀県草津市の概要

草津市には、住民基本台帳に約2,000人の外国人が登録されている。立命館大学びわこ・くさつキャンパスが立地しており、多くの留学生や外国人講師が在籍、在住している。

#### 2. 草津市国際交流協会

ここでは、草津市国際交流協会が主催している様々なコミュニティーサークルが開催されており、日本語会話や社会制度の理解が進められている「日本語ひろば」がある。

ここでは、母国語、日本語、英語の3か国語で日常会話ができる方が多数いる。



#### 3. 外国人の災害時における課題

在住の外国人の方々の防災上の課題として、災害発生時には避難所へ避難することになるが、外国人は日本語が通じない方も少なくなく、また生活習慣も違うことから、避難所までの安全な避難および避難所生活での情報収集やコミュニケーションが困難で、不安な避難所生活を強いられる状況になる。

また、災害時に外国人避難に課題があるにも関わらず、平常時からの外国人への防災に関する啓発が進んでいないのが現状である。

#### 4. 機能別消防団員の検討

災害時に消火活動、救助活動、警戒活動など、幅広い活動に従事することとなる消防団員は現在全国的に団員が減少しており、その確保が喫緊の課題となっている。

そこで消防庁からは、入団促進のため「機能別消防団員」の活用について推奨しているところである。

#### 5. 機能別消防団員の種類

機能別消防団員とは、すべての消防団活動の中で特定の活動に従事する団員のことである。これは、消防団活動を分化し、それぞれの能力を活かして、特定の消防団活動に従事することで、無理なく消防団活動に従事することができるものである。

具体的には、車両が通れない場所への救援物資の運送や、震災時の情報収集など、バイクの機動力を活かしたバイク隊、大規模災害時のみに活動をする大学生の機能別分団、浸水や、水難事故救助など、通常の消防団では活動が困難を極める水害現場で活躍する水上バイク隊、体力の問題や仕事の都合で訓練などに参加できなくなって引退した消防団員がその豊富な経験を生かして消防団の活動に携わるOB団員等、様々なものがある。いずれも、仕事や家族、学業などで、すべての消防団活動に参加することが困難であるが、災害時や特定の活動のみに参加が可能な場合に機能別団員となって活動するものである。



## 6. 外国人団員の導入へ

災害時要援護者となりうる外国人が多数在住している状況と、消防団員確保の課題を、「防災」をキーワードに、母国語・日本語・英語で日常会話ができる人たちの能力を活かし、外国人被災者を支援する機能別団員に任命することで「助けを求める側」から「助ける側」へのシフトチェンジによる防災減災対策を進めるものである。

また、組織化することで緊急招集に即応する責任感を持ち、組織として継続性をもって活動することで一過性に終わらず、より良い組織へと成長していくことができるものである。



## 7. 団員募集

団員の募集にあたっては、日本語ひろばを行っている草津市国際交流協会に御協力いただいた。

まずは、日本語ひろばで先生をしている方に機能別消防団員の説明を行い、趣旨や目指しているものを十分に御理解いただいた上で先生から生徒に説明を行い、ある程度、人選した上で直接本人に説明を行った。

## 8. 活動範囲

消防団員は、非常勤特別職の地方公務員であり、消防職員と同様に一定の公権力行使の権限を与えられている。

具体的には、火災時の延焼防止のため隣接する建物を破壊することが挙げられる。

そのため、今回の機能別消防団員は消火活動を行わず、災害があったときに通訳や避難所での支援活動を業務とし、公権力の行使をしない範囲での活動を行うことに制限をした。

平常時は、外国語ハンドブックを利用した外国人への防災啓発活動やイベント時はブース展開。非常時は避難時における避難誘導、情報伝達支援・避難所における支援（通訳、翻訳、生活相談など）を行う。

## 9. 機能別消防団員の研修、活動実績

任命後には、消防団員として基本的な礼式訓練や普通救命講習、救助用工具の取扱訓練、座学等を研修し、そこで学んだものを活かし啓発活動をしている。

具体的な活動内容としては、草津市国際交流協会や立命館大学主催の留学生が多く集まるイベントで消防団のPRや舞台上で救急救命の必要性や方法の実演を行い、会場のみならず訓練を行った。



### 10. 今後の課題

団員に留学生が多いため、人によっては入団後2、3年で故郷に帰られたり、進学や就職により他県に異動されたりするため、組織としての継続性や今までの経験を受け継ぐためにも草津市国際交流協会や立命館大学協力のもと継続して新入団員の確保に努める必要がある。

